



日本鋳物中子工業会
会長 禰宜田 重春

年頭所感 当会会員様また諸関係者の皆様一言ご挨拶申し上げます。昨年は皆様方には大変お世話になり、まずは御礼を申し上げます。昨年は東日本大震災、福島第一原発の事故また、タイ・バンコクの大洪水、円高の影響、ヨーロッパの不況が続く、それに伴う日本経済への影響は多大なものがありました。皆様におかれましては、たいへんご苦労されたことと、お察し致します。今年に入りまして我が国の輸出産業、特に自動車業

界をとりまく鋳物、中子業界の状況はまだまだ予断をゆるさぬ状況が続いております。何やら暗い話ばかりがつづきましたが、そういう時だからこそ「新しいものづくり」「一層の技術開発」にチャレンジし「良い鋳物は良い中子があれば造れない」をスローガンに日々、頑張っていると思っております。最後に皆様方のますますのご発展とご健勝を祈念いたしまして、ごあいさつとさせていただきます。

タイにて現地レポート 景山産業/景山賢志

私は一昨年11月よりタイに駐在して居ります。ソングループのICPと言う鋳物会社でシェル生産の技術指導が目的です。新工場が昨年5月に完成し、昨年中は洪水の影響もありほとんど試運転程度の生産しか出来ませんでした。新年よりフル生産2500トンを目指して本格生産に入ります。得意先は日系自動車メーカー及び関連部品メーカーがほとんどです。コーテッドサンドは日系ではツチヨシ系TSC社、旭有機材技術供与のPIM社、他ローカルメーカー2社より購入、他にも日系、ローカル数社あるようです。再生コーテッドは日系でしか作れずローカルはすべて新砂、中空が少なく無空が主体でベニングが発生し対応に苦慮します。以上が私の会社関係です。

私の住んでいるシラチャの町はバンコクの南150キロ、海辺でさらに80キロ南にパタヤビーチがあります。日本人が4000人ぐらい居るとか言われます。アパートも日本人向けは満杯で、ますますこれから増えていきそうです。このシラチャより車で1時間圏内に6~7の工業団地があり、それぞれが大規模なものです。またぞくぞくと造成、建設が

行われており、まさに日本からの全面移転の様に思え、これから一体日本はどうなるのか戦慄し背筋が凍る思いです。

幕末、高杉晋作は同志、田中考頭に「困ったという言葉は口から出すな、考えれば必ず打開策が見つかる」と語り、時世の句は「面白き事も無き世を面白く住みなすものは心なりけり」と詠んでいます。現在この時期面白いと言う観点から事業も見直せばあるいは新しい発想もあるのでは？

誰しも希望と志を持っている。私のそれは言わば屁のようなものですが、それでもこの腐った尻をひらぎに終わるのは本意でない。思いつきぶっ放してそれがどの様な物か確かめておきたいと思ったりするのです。

全国の皆さんの奮闘を願い、心より御多幸を祈念いたします。



タイ国地図
バンコクの南にシラチャ

第18回 定時総会・工場見学会の開催

去る平成23年11月4日(金)、全国から73名の出席により愛知県、JR名古屋駅新幹線口に集合。西尾市に向けバス2台で出発。中日本鋳工(株)、黒龍産業(株)西尾工場を見学。

名古屋市内のホテルにて(社)日本鋳造協会 角田専務、(株)三共合金鋳造所(昨年度見学先) 松元専務、中日本鋳工(株) 鳥居社長を来賓に迎え、総会・懇親会を開催した。



来賓の挨拶をする角田専務



中日本鋳工(株)



黒龍産業(株)西尾工場

大規模災害発生に備え 巷で「BCP」という言葉をよく耳にするようになりました。「BCP」に関して、中小企業庁の指針では以下のように説明しています。

BCP(事業継続計画)とは、「企業が自然災害、大火災、テロ攻撃などの緊急事態に遭遇した場合において、事業資産の損害を最小限にとどめつつ、中核となる事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために、平常時に行うべき活動や緊急時における事業継続のための方法、手段などを取り決めておく計画」のことです。緊急事態は突然発生します。有効な手を打つことがきでなければ、特に中小企業は、経営基盤の脆弱なため、廃業に追い込まれるおそれがあります。また、事業を縮小し従業員を解雇しなければならない状況も考えられます。緊急時に倒産や事業縮小を余儀なくされないためには、平常時からBCPを周到に準備しておき、緊急時に事業の継続・早期復旧を図ることが重要となります。こうした企業は、顧客の信用を維持し、市場関係者か

ら高い評価を受けることとなり、株主にとって企業価値の維持・向上につながるのです。17年前の阪神淡路大震災の時には、震災後1週間で何らかの形で事業を再開できた企業はその後事業を継続できましたが、それ以上かかってしまった企業の多くは倒産を余儀なくされた、という話もあります。

昨年の3.11の東日本大震災の統計はまだ出ていないようですが、備えあれば憂いなしです。概ね、最低でも以下のことを予め決めておきましょう。

- ①優先して継続・復旧すべき中核事業を特定する
- ②緊急時における中核事業の目標復旧時間を定めておく
- ③緊急時に提供できるサービスのレベルについて顧客と予め協議しておく
- ④事業拠点や生産設備、仕入品調達等の代替策を用意しておく
- ⑤全ての従業員と事業継続についてコミュニケーションを図っておく

冬期の節電メニューパンフレット配布される

経済産業省資源エネルギー庁より、今冬、関西電力・九州電力管内を中心に電力不足が懸念される状況下、引き続き供給力の確保等の努力をしているところ、なお電力需要と供給力にギャップが発生することが懸念される状況において、需給ギャップによる停電の発生を回避するため、国民産業界に自主的な節電の協力要請があった。

- 【参考】節電期間(沖縄を除く全国の電力会社管内)
3月30日までの平日9:00~21:00
(九州管内8:00~21:00)
関西電力管内: 3月23日までは▲10%以上の節電
九州電力管内: 2月3日までは▲5%以上の節電

第13回 世界精密鋳造会議(WCIC)

社団法人鋳造技術協会は、2012年4月15日(日)~18日(水)に、国立京都国際会館で欧州(EICF)、米国(ICI)、及び英国鋳造協会(cmf)との共催により開催。

今回「アジアからの変革(Innovation from Asia)」をコンセプトに、今や世界の鋳造生産量の約6割を担うにいたったアジアから、最先端の精密鋳造技術や鋳造業界の将来を示唆される。詳細は公式ホームページを参照下さい。
<http://foundry.jp/wcic/index.html>

技術指導支援 中国山東省、山口常林機械集

山口常林機械集(株)が、張義華(董事)一行が1月14日に黒龍産業(株)西尾工場を訪問し、技術者派遣などの要請をした。



中華人民共和国 地図
来訪者一行と

◆編集後記◆

自然災害や合従連衡で自動車業界の勢力図が目まぐるしく変動している。東日本大震災とタイ洪水による部品不足での大幅減産を強いられたことの影響は甚大だった。鋳造工場の海外進出、国外現地法人との関わりも多くなるであろう。

情報をお寄せ下さい。
会員の皆様のご意見・ご希望をお待ちしています。又、年会費の納入をお願い致します。
事務局